

# 定例観察会実施報告書

2024年3月22日

実施日 2024年3月10日（日）  
テーマ 雌岡山で春を探そう  
コース 神戸電鉄緑が丘駅前～雌岡山～神戸電鉄緑が丘駅  
集合 9時30分 神戸電鉄緑が丘駅  
解散 15時10分 神戸電鉄緑が丘駅  
参加者 ビジター 52名 会員32名（4班22名）

冷たい雨や風が続いたかと思えば、コートを脱ぐほどのポカポカ陽気の日もあった今年の冬でしたが、いよいよ終わりに近づいてきました。当日の朝は霜が降りて田畑を白く輝かせるほどの冷え込みでしたが、太陽の恵みで穏やかな観察日和になりました。駅前に84名もの方にお集まりいただきました。

竹林や田畑の横を少しずつ進むと、右側に田んぼや大きなため池が見えてきて、ホトケノザ、オランダフウロやヒメオドリコソウなどの春の花が咲き始めていました。

少しだけ広い所で立ち止まり、何やら小さな種と水とプラスチック容器に入った土で実験が始まりました。オランダフウロの種です。ピンクの花を咲かせた後、細いネジのような種ができます。

雨（水）が当たるとネジ状の種は自らクルクル回転し始めるのです。このように雨を利用して土に入り込み雨を使って発芽を促すという作戦で子孫を増やしている植物の実験を各グループでやってみました。



うまく回転したグループやそうでなかったグループもありましたが、皆さん驚きと感動をもって観察されていました。

少し進んだところでは、もうすぐ花が咲くカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサの比較や、オオイヌノフグリとフラサバソウを比べてみていました。ルーペを使ってみると特にかわいさがひとしおです。また、オニグルミの冬芽を観察し、実を割って中身を確認していました。

冬の間たくさんいたカモ類もいなくなり、金棒池などには、カワウやオオバンの姿が見えるだけになっていました。歩道沿いの池の縁には、成長した樹木が何種類も見られ、サワラの葉の裏を見て、イロハモミジの冬芽やヤツデの実や葉を観察しながら神出神社参道入口までゆっくり観察しました。



雌岡山の坂を上りながらの観察では、竹の種類の違いや落葉樹と常緑樹の入り混じった参道をゆっくり登り、中

間地点の梅林では満開を少し過ぎていてもなお美しい梅を鑑賞しました。

梅林では前方に開ける六甲山系の山々や西神、明石、三木そしてお隣の雄岡山を一望して休憩しました。

雌岡山や神出地方の民話や発掘調査によりわかった焼き物（須恵器）などの歴史の話を、特別に短くまとめた写真やイラストを使って解説をしてもらいました。何人も興味をもって聞いていらっしやいました。同時に近くのスギの幹の皮の下で越冬中の虫を詳しい解説を交えて観察しました。中にいたのはとても小さな虫でしたが、皆さんはスギの周りを取り囲むようにして楽しんでいました。



<歴史のお話を聞く>



<越冬中の虫を観る>

参道に戻り少し傾斜がきつくなりおなかも空いてきて、とてもゆっくりなペースで進みました。カラスザンショウ、カゴノキ、イヌシデ、アカシデ、ヤマコウバシやアズキナシなどを観察して駐車場まで頑張りました。

神社に最初に到着したグループからずいぶん間が開いてしまいましたが、時間差があったことで混雑を避けることができ良かったです。お昼休憩が20分くらいしか取れなくて、境内からの良い眺めや歴史の解説に時間が少なかったと思います。

出発準備のできたグループからカタクリ保護地に向けて進みました。道に枯れ葉が積もっていて少し急傾斜だったので、足元に注意しました。

保護地域には柵が作られ、入り口にはロープが張ってありましたが、神出神社の宮司さんの許可を得ていましたので、1グループずつ順番に案内しました。

咲いていました！小さなピンクの縁取りのあるケスハマソウに蕾もいっぱい！咲き始めです。



ケスハマソウ（キンポウゲ科）

スプリングエフェメラル（春の妖精）と呼ばれ、他の植物に先駆けて早春に花を咲かせ、短い期間で子孫を残そうとする儂くもかわいい花たちの総称です

盗掘や温暖化などの環境の変化についてゆけず、消えてゆきそうな種がたくさんあります。

カタクリもケスハマソウも希少種です。雌岡山でもかつては花園であったそうですが、次第に消えていってしまったということで、保護地は地元の「神出かたこ会」が草刈りをしてカタクリやケスハマソウを保護されていました。昨年残念ながら「神出かたこ会」は後継者不足で解散され、今後この保護活動はどのようになるのか心配



蕾をつけているカタクリ（ユリ科）は1株だけ

です。(なお、今回宮司さんとお話をして、草刈りをして観察しやすくされたのは、当会担当班の T 氏です。)

西の参道を通って大鳥居までゆっくり観察しながら下山しました。



☞成虫越冬したイシガケチョウ（羽が痛んでいます）



車道を渡ると、のどかな景色には違和感のあるソーラーパネル3基が大きな池に浮かんでいます。鳥や植物をゆっくり観察しながらの農道散策です。前方に美しい円錐形をした雄岡山が見えます。



見かけることが少ないノハラツメクサ（ナデシコ科）の観察にも余念がありません。

今回の観察ルートは樹木あり草花あり、野鳥あり、歴史あり、昆虫あり・・・盛りだくさんの観察ができました。また、雌岡山への坂道やのどかな農道散歩でのウォーキングで、冬の間ちぢこまっていた身体にも春の日差しが元気づけてくれました。

報告者

六甲山自然案内人の会 4班 中塚順子